

「ご進講」に対する日本バプテスト連盟理事会表明

日本バプテスト連盟（以下「連盟」）は、結成 70 年の節目にそれまでになされた信仰的表明を受けつつ、「連盟結成 70 年声明」（2018 年「70 年声明」）を表明しました。その中で、「わたしたちは日本基督教団の内部にあって戦争に協力し、アジアの諸教会にも日本への服従を強要した歴史をもつ。わたしたちは主イエスのみに従うべき信仰と教会を天皇崇拝、国家の絶対化、そして戦争そのものに隷属させた。わたしたちは今、改めてこの罪責を告白する」こと確認し、新たな歩みを始めました。そのような中、天皇及び天皇制問題を連盟諸教会の信仰告白、教会形成の課題として共に取り組んできた同労者が、NPO 法人理事長の立場で、今年 7 月 16 日、宮内庁の求めに応じて天皇・皇后への「ご進講」に臨んだことが報道されました。

連盟は、「70 年声明」と共に、「靖国神社問題に対する日本バプテスト連盟の信仰的立場」（1982 年「反ヤスクニ宣言」）、「戦争責任に関する信仰宣言」（1988 年「戦責宣言」）、「平和に関する信仰的宣言」（2002 年、2019 年改訂「平和宣言」）、「日本バプテスト連盟『結成 70 年』にあたっての声明」（2018 年）などを表明し、天皇・天皇制に対し、一貫して批判的立場を表明してきました。

「ご進講」とは、「天皇・皇后・皇族に学者等が業績などをご説明申し上げること」（宮内庁用語集）、「貴人に対しその前で講義をすること」（広辞苑）、「天皇や身分の高い人に学問を講義すること」（大辞林）とされています。「天皇・貴人・身分の高い人」の存在が前提にされる時、神が平等な存在として創造された人を分断し、差別され小さくさせられる人々を生み、人が人として生きる権利を阻む仕組みであることから、「ご進講」に応じること自体に大きな問題があると言わざるをえません。

バプテスト教会は、自らで考え自らで行動する自主自律を互いに尊重する信仰に立っており、個人の信仰的立場に制約をかけることはありません。とはいえ、看過できないと判断した理事会は今回の件を受け、当事者との対話を求めましたが、連盟が表明してきた信仰的立場をもとにその内実を共有できる対話にまで至っていません。「反ヤスクニ宣言」で、「かつて、天皇制イデオロギーと国家神道がもつ悪霊的性格を批判しえず、『八紘一宇』の名のもとに、アジア侵略、差別と抑圧、戦争等をひきおこしていった悪魔的諸力の前に沈黙し迎合していった教会の痛みを、わたしたちは今日どれだけ、教会の体質として克服しえているだろうか」との表明を内実化できていない出来事と受け止めつつ、「私たちは、近代日本が天皇制を頂点にして作り出した民衆統合の体制や、天皇・皇室への近親度から生まれる優劣の意識や差別のことを、きちんと批判できただろうか」（「70 年声明」）という言葉を自らへの問いとして、深い反省をもって受け止めなければならないと考えています。

理事会は今後も、天皇・天皇制問題に対する信仰的立場を私たちの信仰告白、教会形成の内実とし、協力伝道の業に仕えていくことをここに改めて表明します。また、天皇・天皇制問題に取り組んでいる諸教会や団体、そして個人の人たちと、これからも共に歩んでいくことに変わりがないことを表明します。

2020 年 12 月 11 日

日本バプテスト連盟理事会